祝　　辞

東京大学総長
向　坊　　隆

エネルギー・資源の安定供給が，わが国の将来のための重要課題であることは今更申すまでもありません.

この課題を解決するのは容易なことではなく，科学技術をはじめ，政治，経済などあらゆる分野にわたる個別的ならびに総合的な努力が必要であります．その関連するところ，既存の基礎科学から応用の諸分野，人文・社会科学などすべての範囲に及ぶといってよいでしょう．また，それらを包括したシステムとして考えることも重要であります.

このような事情をふまえ，今回，学界，官界，産業界の方々が一体となって，エネルギー・資源研究会を設立されましたことは，誠に時宜を得たものとして，心からお喜び申上げます.

研究会の健全な御発展を切に期待して祝辞と致します.

「一 粒 の 麦」

東京都立工科短期大学学長
渡　辺　　茂

エネルギー・資源研究会発足にあたり，二，三の感想を述べさせていただきたいと思います.

石油ショックがおこったのは昭和48年でしたから，あれからもう7年の年月が流れているのに，エネルギーにたいする決定的な解決法は何一つ実現していないということを認識しておくことからはじめたいと思います.

研究開発のリード・タイムの長いことはよく知っていましたが，いまここで具体的な実感として，研究開発のむつかしさと時間がかかるということを，あらためて思い知らされたような次第です.

いったい，わが国は，ハード・パスをいくべきか，それともソフト・パスに改めるべきかについては，ロビンズさんが来日したのを機会に，いまやホットな論争がはじまるようになりました.